

研究主題 「学習意欲を高め、基礎・基本の定着を目指した取り組みについて」
副主題 ～形成的評価を利用した授業づくりなどを通して～

福岡市立能古中学校
発表者 上野 史郎

1 主題設定の理由

○本校の研究内容

本校では、昨年度より「確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ生徒の育成」を研究主題として、基礎・基本の定着を目指した指導法の研究を行うことによって、基礎学力を付けていく取り組みをしている。

《能古中学校の学習の基礎・基本のとらえ方》

各教科の基礎・基本

3年間で定着させる学習内容

○興味関心や意欲の喚起、読む力、書く力、計算力の向上、知識、理解、学ぶ意欲 課題発見能力、思考力
判断力、表現力、問題解決能力、学び方

学習規律(生徒)	学習指導法・指導形態(教師)
授業 ①チャイム席の遵守 ②学習準備の習慣 ③開始、終了の挨拶の定着 ④授業態度の確立 ・忘れ物をしない ・正しい姿勢で受ける ・話をしっかり聞く ・指示に的確に従う ⑤宿題の確実な実行 ⑥提出物期限の厳守 ⑦家庭学習の確立(予習復習) ・予習による学習内容に対する興味・関心、理解の向上 ・復習する習慣による学習内容の定着	学 ※時間の遵守 習 ①授業の流れに沿っての視点 ・授業のねらいの明記 ・興味関心を高める導入の工夫 ・適切な学習内容の展開 ・適切な授業のまとめ ②学習活動の視点 ・わかりやすい板書 ・発問の工夫*生徒が考える問いの作り方*説明・指示、発問の明確化 ・学習内容の工夫 ・適切な指名の工夫 ・学習内容の理解や習熟に応じた指導 ・生徒の実態に応じた指導(*音読指導重視) ・補充的な学習の実践 ③教材教具 ・教材、教具の工夫 ・学習プリントの工夫 ・情報機器(パソコン・VTR等) ④指導形態の視点 ・少人数指導 *分割、等質、習熟度別、課題、興味・関心、テーマ別分割

学習環境の整備(整理・整頓)

- ・学習の場の環境整備(整理・整頓がなされているか)
*机、椅子がきちんと並んでいるか、棚が整理されているか、ゴミが落ちていないか、教卓の上は出席簿だけか
- ・掲示物の整備、工夫(常時掲示、タイムリー掲示)
*学級・教科(特別教室のない教科)・お知らせに関するもの

○本校の概要

本校は1年生(9名)、2年生(10名)、3年生(4名)の計23名の小規模校である。昨年度より特認校制度が実施され、11名が島外から通学している。また、23名中17名が女子生徒である。

○本校生徒の実態

福岡市学力実態調査の結果について：関心・意欲・態度等の情意面では、BCの評価の生徒はほとんどが成績の下位生徒であった。数学的な見方・考え方では、努力を要する生徒の割合が約半数以上であった。また、表現

	興味	見方	処理	知識
A	70%	30%	47%	55%
B	15%	15%	38%	38%
C	15%	55%	15%	7%

処理や知識・理解は一部を除き、おおむね良好であった。〈福岡市学力実態調査〉

この結果と昨年度の状況や4月に行っている標準学力検査等の結果から次のことがいえる。(ただし、小規模校のため単純に平均値による比較は無理がある。)

特認 生徒 諸事情があって登校しているため、不登校気味であったり、習っていないところがあったりして、一般的に基礎・基本ができていない。一方、学習に対する意欲は比較的高い。学習塾は1名行っている。

能古 生徒 学力に2極化が見られ、基礎・基本が不十分だと思われる生徒が4割程度いる。また、学習に対する意欲に欠ける生徒が数名いる。学習塾には誰も行っていない。

全体的には どの学年も学習に対する態度はまじめで、一生懸命、授業に取り組んでいる。よく発表し、提出物等もきちんとできている。一方、欲がなく家庭での学習時間が少ないため、学習内容の定着度が低い生徒が7割を占めている。また、計算力は、個人的な比較を4月に実施している標準学力検査で行うと13人中11人(2年生と3年生)がポイントをあげていることから、かなりついてきたと思われるが、関数領域や図形領域、文章問題が全体的に弱い。

○本校の数学に対する取り組み

本校では数年前から、数学の学力低下が問題になり、いろいろな取り組みがなされてきたが、なかなか成果が出てこなかった。そこで、昨年度より更に取り組みを強化し、本年度に至った。本年度の取り組みは以下の通りである。

- ・選択教科では、数学の補充コースを全学年で開設する。
- ・帰りの会後、数学及び英語の補充時間を設定し、自ら進んで学習に取り組む姿勢を育て、基礎・基本の定着をはかる。(10分間学習)
- ・個に応じた課題を選定し、家庭学習を指導し継続的に基礎の定着をはかる。
- ・放課後の時間を活用し、個別指導を行い学習内容の定着をはかる。
- ・学力の高い生徒に対し、発展的な課題を与え、さらにその力を伸ばす。
- ・学習意欲をなくしている生徒に対し達成感を持たせ、自ら進んで学習に取り組む姿勢を持たせる。など

以上のことから、「学習意欲を高め、基礎・基本の定着を目指した取り組みについて～形成的評価を利用した授業づくりなどを通して～」を主題として設定した。

2 研究仮説

形成的評価を取り入れた授業づくりなどを行うことで、学習意欲が高まり、確かな学力が身につくであろう。

3 研究目標

- (1) 形成的評価を利用した授業づくりを行い、個に応じた学習をさせる。
- (2) 10分間学習を隔日で行い、計算力の定着を図る。
- (3) 個人的な交換ノート(課題)を行ったり、放課後理解の低い生徒を対象とした勉強会の実施を行って、既習内容の定着を図る。
- (4) 数学だよりを発行し、数学に対する興味・関心を持たせる。
(1), (2), (3), (4)を行うことによって基礎・基本を定着させ、学習意欲を向上させる。

4 研究の実際

- (1) 観点別評価一覧表(補助簿)を基に1つの単元を2～3に分け、形成テストを実施する。テスト後、理解ができていない内容について授業のやり直しを行い、個々に応じた問題演習を行う。
- (2) 英語と数学で放課後の10分間学習(授業に数えない)を行う。小学校の内容から入り、個々の力に応じて問題を解いていく。1つの単元が終われば進級テストをして学習の定着を図る。
- (3) 声かけをした生徒や希望者を対象に、個々に応じた問題を与え家庭学習をさせて、個人指導を行う。また、放課後、希望者には理解ができていない内容について補充学習を行う。
- (4) 月に2度程度、数学の内容を主とする「数学だより」を発行し、数学に対する興味を持たせる。

5 考察

- (1)について(1学期内に資料をつくるため、今回は2年生「連立方程式」のみの考察)
実践可能なものにするために、形成テストは観点別評価一覧表を見ながら教科書中心に作成した。形成テストが終わった生徒から、模範解答を配って自己採点させた。形成テストは成績に関係しないので、生徒たちは、負担を感じることなく取り組んで

いた。テスト後のやり直し授業では、できるだけ丁寧に行ったつもりであるが、限られた時間内で行うために、全員を納得させることはできなかった。(特に、形成テストⅢは不十分だった。)個々に応じた問題演習では、いろいろな問題を準備し、生徒が理解していないと思われる問題を個(普通は、補充・深化・発展)に応じて解かせた。全員が、自分の与えられた問題を熱心に解いていた。理解の遅い生徒には、個人的に解き方の説明を行った。理解の遅い生徒に、文章題などの難しい問題を理解させることの難しさがあった。

また、「連立方程式」終了後にまとめのテストとして、「到達度テスト」を行った。テスト時間30分で行ったため、最後まで解けなかった生徒がいた。また、2%を0.2とした生徒が多くいたため、正解が少なかった。生徒の反応は全体的に好意的であった。(資料2)

(2)について

昨年度から帰りの会後の10分間を「10分間学習」と時制に位置づけて行っている。本年度は、英語と隔日で行い、1年生は、「小1の問題～中1の1次方程式までの計算問題」、2年生は「小1の問題～中2の連立方程式までの計算問題」、3年生は「小1の問題～中3の2次方程式までの計算問題」ただし、理解度に応じて2、3年生は進級テストに合格すれば先にすすむことができる。また、担任が採点をし、進級テストは数学科が採点を行う。(わからない問題等は放課後や選択の時間に個人的に説明)さらに、目標として「学習意欲を高め、数学の基本的な計算を身につけさせる。」とし、あくまでも、補助的な取り組みである。実施にあたっては、全学年分のプリントや進級テストを事前に準備し、状況に応じて対応できるようにしている。

生徒の反応は、やや意欲が感じられない生徒がいるものの、全体的にはどの学年も熱心に取り組んでおり、進級テストでやりがいを感じている生徒が多い。(資料3)

(3)について

希望者や理解度の低い生徒に声をかけて交換ノートを行っているが、継続的に提出している生徒に効果が出始めている。意欲が一番大切だと痛感させられる。

(4)について

数学のおもしろい内容やパズルを紹介している。生徒は全員「おもしろい、続けてほしい」とアンケートに答えていることから、内容を考えるのがたいへんであるが、やめられなくなってしまった。ただ、興味・関心を持たせることはできたが、意欲を持たせるまでには至っていない。

6 成果と課題

【成果】(少人数のため統計的処理は行っていない。)

- 形成テストによって、自分の理解度を自分で確認することができたようである。
- テスト後の授業のやり直しは20分程度しかできなかったが、理解度の遅い生徒には、特に計算問題で支持が多かった。
- 問題演習(枝分かれ)は、効果的な取り組みであった。(放課後の学習にも利用)
- (1)についてはアンケートの結果や事後テストの結果、十分に成果があると考えられる。
- 比較的簡単な計算問題や文章題なら全員が解けるようになった。
- (2),(3),(4)については、生徒の支持があるし、行う意味があるので今後も続けたい。

【課題】

- 形成的評価を取り入れた授業は準備に時間がかかる。週3時間という限られた時間の中で、1単元2～3つの形成テストを行い、授業のやり直し後に問題演習の枝分かれを行っているが、今後この時間をどう確保していくか。
- 形成テストは時間制限を設けなかったが、到達度テストは評価をするため制限時間を設けた。そのため理解はできているが、計算に時間がかかり、時間内に終わらない生徒が多くいた。今後は、時間・問題の質と量を考えて出題しなければならないだろう。
- 計算をするスピードをもう少し上げる必要があると感じた。
- 既習内容を定着させることの難しさがあり、どのように定着させていくか。
- 理解の遅い生徒に、文章題などの難しい問題をどう理解させていくか。